和牛育成管理共進会

10月28日に本宮市場で行われた第31回「JAグループ和牛育成管理共進会」で好成績を収めた関係者が来庁し、村に成績を報告しました。来年は５年に１度の全国大会が鹿児島県で開かれます。全国大会につながる来年の共進会にも期待が集まります。

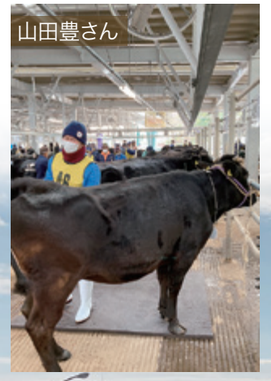
村役場での報告会にて

村産の牛が好成績を収める

10月28日、本宮市場（県家畜市場）で、第31回「JAグループ和牛育成管理共進会」が開催され、村の生産農家３人が４頭を出品しました。

共進会では１区から５区まで部門別の審査が行われ、４区（３頭一群）で、細川恵美さん（上飯樋）・佐藤豊洋さん（飯樋町）・荒川孝幸さん（南相馬市）のグループが優等賞主席、また５区（親子）で山田豊さん（関根・松塚／株式会社ゆーとぴあ）が１等賞と好成績を収めました。「JAふくしま未来」としては３つの区で主席を獲得し、２年連続の団体賞を受賞しました。

11月１日に村役場で開かれた報告会。共進会にも足を運び、改めて報告を受けた杉岡村長は、「現地で生産者の皆さんの思いの強さを感じてきました。村の牛をしっかり発信し応援していきたい。佐藤一郎さん（大倉）の牛が全国大会に行った前回大会の喜びをまた味わいたい」とさらなる活躍に期待を寄せました。


山田豊さん

佐藤豊洋さん

細川恵美さん

共進会の会場の様子

あぶくまもち

冷害に強く中山間地で安定した品質・収量を確保できること、従来の品種より加工適正が高いのが特長

震災前の夢を再び

もち米「あぶくまもち」は、県が高冷地向けに開発し、村も栽培拡大に取り組んでいた品種です。平成23年の「新春村民の集い」では、新しい特産品とするべく期待を込めて、このもち米を販売し、会場で餅つきも行いました。

村は、震災で取り組みが中断されたこの「あぶくまもち」を復活させようと、今年、前田地区のほ場16アールで実証栽培を行い、９月に収穫。関係者や村民と共に加工の試作、試食による評価などを行っています。

特定の地域名を冠した作物は珍しく、切り餅・丸め餅にする際の作業性に優れているなど特徴のあるもち米で、村は来年以降も栽培や６次化に取り組み、近隣市町村とも連携し振興していきたいと考えています。

あの日の想いを実らせたい

平成23年 新春村民の集い

震災直前の平成23年１月に開かれたイベントです。「あぶくまもち」を村の新しい特産品に育てていこうと生産者をはじめ関係者の間で機運が高まりつつありました。会場でついた餅は参加者がつきたてを味わいました。

粘りがありモチモチして、おこわに合う。餅はサクッとした独特の食感。団子や菓子、洋食との相性はどうかなど、さまざまな感想・意見が集まりました。

食味や加工適性を評価する求評会が、10月27日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。県・村の担当者、JA、商工会、生産者、学校関係者などが、おこわと餅に加工された「あぶくまもち」を試食し、実食して感じたことを評価シートに書き入れました。

『いいたて希望の里学園』では、11月15日の給食に「あぶくまもち」が登場。モチモチの五目おこわを、子ども達が笑顔で味わいました。校内放送では杉岡村長が山田徹校長のインタビューを受け、児童生徒に「あぶくまもち」の特性やこれまでの歩みを伝えました。